

大津波災害を想定

津波避難訓練実施



問合せ 企画防災課防災グループ（☎74-3004）

11月5日、津波災害を想定した避難訓練を津波浸水想定区域の12自治会1、850人を対象に実施しました。

当日は、住民142人と町職員や警察、消防などの関係者96人の計238人が参加し、自宅から避難場所への経路や所要時間、初動対応業務などを確認しました。

今回の訓練は、太平洋沿岸で震度6弱の地震が発生し、大津波警報が発令されたことを想定して実施。9時に地震が発生し、気象台の大津波警報発表により町長が「避難指示」の発令を決定。防災行政無線による町内アナウンスやコミュニティFMへの緊急割り込み放送、緊急速報メール、広報車などで住民に避難指示

を伝達しました。

住民は、放送を受けてから、役場駐車場や母と子の館など町内9か所に設置した避難場所に向かいました。

本町保育所では、幼児26人と職員8人の計34人がヘルメットや防災頭巾をかぶり、JR洞爺駅の自由通路を通じて役場まで避難。平口千春統括所長は、「日頃の訓練の成果が活かされ、約6分で役場まで避難することができました。防災意識を高めるために、これからも訓練を続けていきたいです」と話しました。

役場防災研修ホールに設置された災害対策本部では、被害状況や対応などについて確認。真屋敏春本部長が「前回の有珠山噴火からまもなく20年を向かえる。また、全国各

地でも災害が多発しているの
でしっかりと訓練を行い、住
民の安全確保に取り組んでい
きたい」と総括しました。

訓練終了後、虻田ふれ合い
センターで開催された防災講
演会には、住民や関係者約
100人が参加しました。

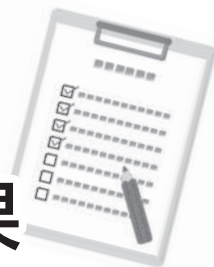
「心は流されない」と題し
て行われた講演では、東日本
大震災のとき、住民の避難誘
導中に自らも津波に流される
経験をした岩手県釜石市の横
山幸雄さんが、津波の映像を
交えながら、震災当時の様子
を語りました。



自らの体験を語る講師の横山幸雄さん



避難訓練 アンケート調査結果



11 月5日の津波避難訓練時に実施したアンケート調査の結果がまとまりましたので、お知らせします。避難訓練の参加者 142 人のうち、75 人にアンケート調査へ協力いただきました。

■避難所に到着するまでの時間

今回の訓練で避難場所に到着するまでに要した時間は、早い人で4分、遅い人で46分、平均で約12分でした。

大きな津波が発生する場合は、強い地震を伴うことがあるので、訓練のようにすぐに避難行動を取ることができない場合があります。日頃から家具の固定や部屋の出入口付近には家具を置かないなどの対策を行いましょう。

また、全体で32%（24人）の人が避難に要した時間が、自分で想定していたよりも多く時間が掛かっていることがわかりました。これは、津波到達時間内に避難できないリスクがあるので、日頃から避難所までの徒歩による移動時間を知っておく必要があります。

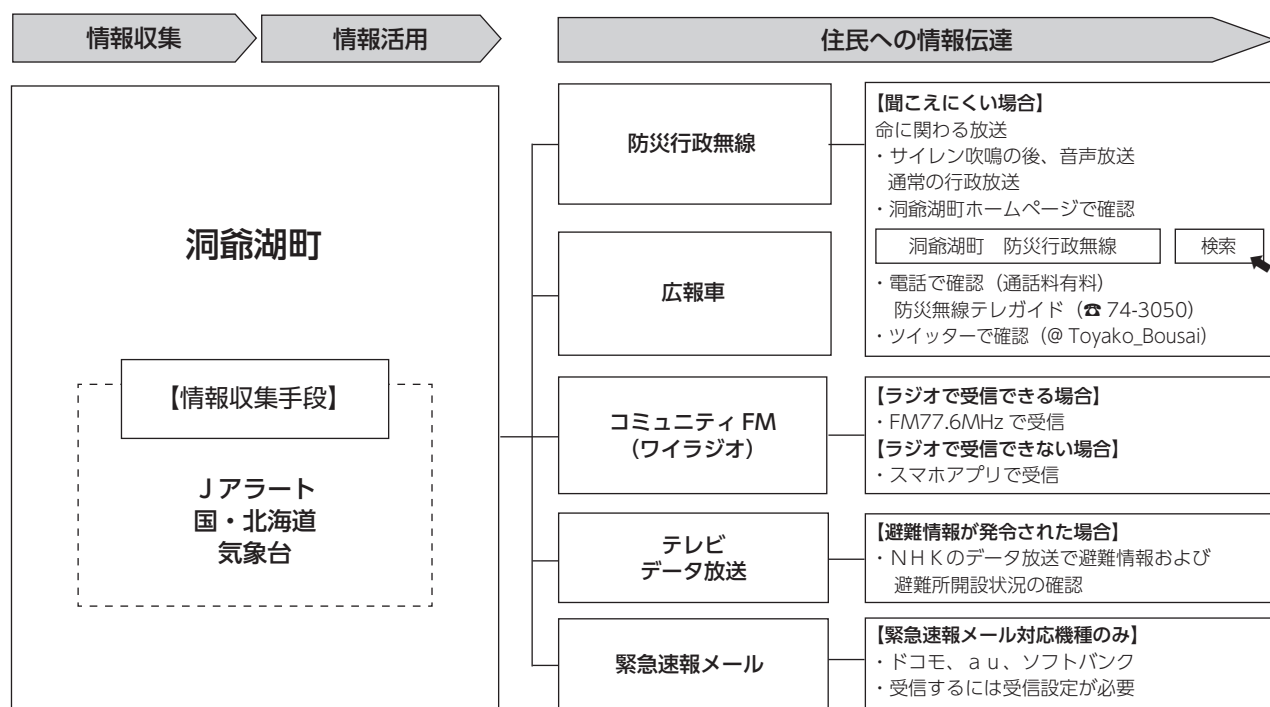
■避難情報伝達方法

防災行政無線について、95%（71人）の人がアナウンスを聞いて避難行動を開始しましたが、5%（4人）の人は聞こえなかったと回答しました。

町では、さまざまな方法で避難情報を発信していますが、特に、避難情報などの「命に係わる情報」については、消防サイレンを繰り返し吹鳴し、避難を呼びかけます。

また、1人暮らしの高齢者で避難行動に不安を感じている人は、図の情報伝達以外に「避難行動要支援者名簿登録制度」という支援制度がありますので、健康福祉課福祉・高齢者グループ（☎ 74-3001）まで相談してください。

～洞爺湖町の情報伝達体制～



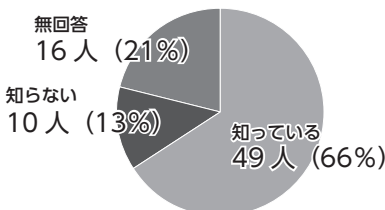
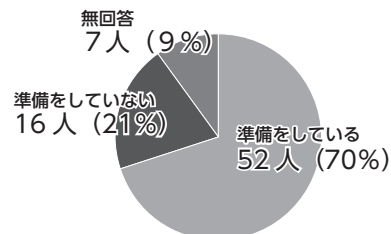
■日頃から災害への備えをしましょう

津波への備えの第一歩は、津波ハザードマップの確認や津波避難訓練に参加することです。広報とうやこ10月号とともに配布した「津波避難訓練のお知らせ」にも津波ハザードマップを掲載していますので、日頃から津波ハザードマップを確認し、自宅から津波が到達しない安全な場所までのルートを確認しましょう。

町では年に1回、有珠山噴火災害と津波災害が想定される地域に防災マップを配布していますので、併せて確認してください。

▶災害への備え

災害への備えとして、70%の人が何らかの準備をしている一方で、21%の人が準備をしていないことが分かりました。



◀ハザードマップの認知

ハザードマップについては、66%の人が知っていましたが、13%の人が知らないと答えました。